

令和元年度第1回旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日 時：令和2年1月14日（火）19時00分～21時15分

場 所：国立市役所3階 第3、第4会議室

出席委員：磯部委員、木村委員、藤本委員、宮崎委員、鈴木委員、秋田委員、三島委員
落合委員、佐藤委員、洪委員、中村委員

欠席委員：藤田委員

事務局：都市整備部 門倉部長

都市整備部特命担当 三澤課長

国立駅周辺整備課（関野課長、菱沼主査、和田主任、後藤主任、清水主任）

記録（要旨）

1. 開会挨拶等

- ・国立駅周辺整備課長より開会の挨拶があった。
- ・事務局より連絡会の趣旨説明、議事録作成等、連絡会運営に関する事務連絡を行った。
- ・事務局、委員の自己紹介を実施した（自己紹介シート記入・ペアを作って自己紹介）。

2. 会長・副会長の決定

委員の互選の結果、会長は鈴木委員に、副会長は洪委員に決定した。

3. 施設概要・活用コンセプト

資料に沿って事務局より説明を行った。

<質問>

（佐藤委員）屋外利用スペースの広さはどれほどか。

（事務局）施設西側に車両を1台駐車できる程度のスペースを2か所設ける。

（磯部委員）閉館時間を午後10時とする根拠はなにか。

（事務局）近隣公共施設の閉館時間を参考に設定した。

（磯部委員）年末年始は休館とせず、効果的な使い方をした方がよいのではないか。

（事務局）そのようなご意見は他でもいただいたことがあり検討したが、人員体制等の問題もあり現時点では難しい。

4. オープニングイベントについて

資料に沿って事務局より説明を行った。

<質問>

（中村委員）オープニングイベントの際のシャトルバスの運行頻度はどれくらいか。

（事務局）現時点では未定。検討中である。

<意見>

（磯部委員）土日の午前はメディアとしては取り上げにくい時間帯。オープニングイベントを報道機関に取り上げてもらうためにどのようなことを考えているか。

（事務局）取材しやすい時間設定等は了解しているが、開業式典の予定等も加味した

うえでの時間設定である。旧国立駅舎開業の日付と併せてオープニングイベントを取り上げてもらいたいと考えている。市広報・広聴係とも相談しているが、今後も考慮すべき点と思う。

5. 旧国立駅舎が目指す将来像について

(鈴木委員) 皆さん来年度に向けてディテールの話に入っていきたい気持ちだと思いますが、事務局から話があったように本日は少し我慢して具体的な話に入る前に旧国立駅舎が目指す将来像について考えてほしい。

皆さんは2年度分の任期。2020年度にどのようなことが起きていて、そのためにはここで集まった皆さんで事務局にどんなサポートができるのかというのを考えるのが2019年度の4回の会議でしたいと思う。皆さんのやりたいこと実現したいことがあってこの場に来ていらっしゃると思う。1回目は、そのやりたいこと実現したいことが、この旧国立駅舎というものがあることによって可能となるか、イメージを膨らませ、お互いに共有してほしい。

下記の検討テーマに基づき、2グループに分かれて検討した(途中、席替えあり)。

- (1) どんな想いで旧国立駅舎運営連絡会に参加していますか。
- (2) 旧国立駅舎、その周辺、まち全体でどんなことが起きてほしいですか。
- (3) 1年後、3年後、10年後の旧国立駅舎と、くにたちのまちの姿を描いてみましょう。

<検討結果>

【グループ1】

最終的には、まちの姿としては、様々な人が集い、知らない人同士でも話せるような関係性が作れる環境—そのような環境が多様性があるということではないか—になっていけばよいという話があった。また、くにたちの財産というのは学校が多いことから若い人がいて、そういう人たちが、またくにたちに帰ってきたり、まちで活動したり、別の誰かを連れてきたりできるとよいという話があった。

そうなるために3年後の時点で必要になるものは、多世代もしくは例えば同じ趣味の人たちなどが「出会える場所」であると考えた。また、国立駅の北口と南口、国立駅、谷保駅、矢川駅、南部地域といったエリアの垣根を越えて繋がって、多発的に何かが起きているような動きのあるまちに3年後はなっているとよいという話があった。

そのためには、1年後には様々な人が旧国立駅舎を待ち合わせ場所・コミュニケーションの場として利用することが重要。同じ空間で時間や体験、出会いを共有できるような場所になればよい。また、特定の人だけではなく広く利用される施設にならなくてはいけない。

1年後、3年後、10年後と段階的にエリアを拡大しながら最終的にはまち全体で様々な人が交流できる文化を形成、くにたちのライフスタイルの魅力を伝えられるとよいという話になった。

【グループ2】

最初の1年は、色んな人に使ってもらう・まずはやってみる。すぐできるアイデアとしてワゴンカーや音楽という話があった。できないという状況を作らないことが大切。現時点では市外における旧国立駅舎の認知度が低い現状があるため、利用のモデルケースを市内だけでなく、市外に発信していくことも大切だと考える。

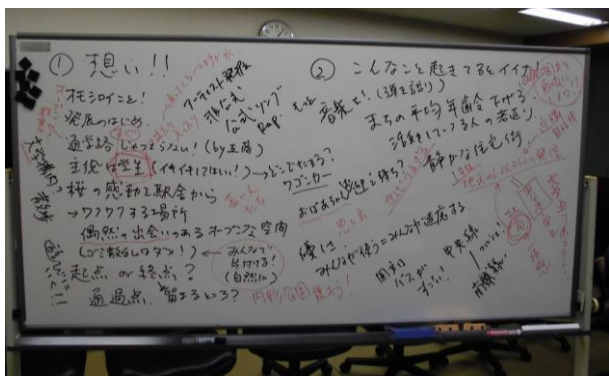
3年後にはモデルケースの蓄積、経験により、賑わいの創造だけでなく歳入増も目指せるような環境になっていけばよい。一橋大学や第五商業高校だれでも見学できる授業や旧国立駅舎が自立して運営してできるなど。そうしていくと、たくさん人がまちに集まってくるようになると思う。

10年後には、たくさんの人で賑わって、ロータリー（円形公園）、大学通り、一橋大学構内といった公共・準公共の場において誰もが自由に入出りできる、あるいは催しを開催できるような環境になればよいという話が合った。車よりも人中心のまち・自由なまちになっていくことを目指せるとよいという話があった。

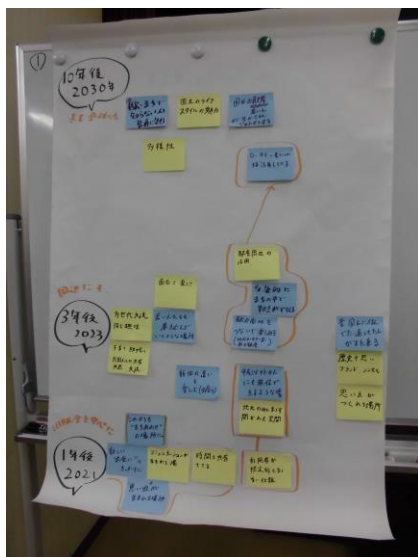
6. 当日の様子



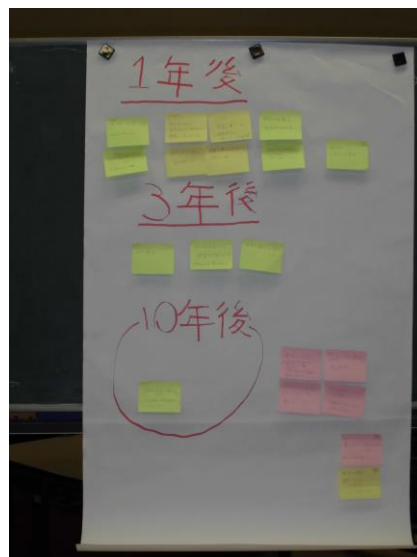
▲グループワークの様子



▲グループワーク時に使用した記録



▲グループ1の検討結果まとめ



▲グループ2の検討結果まとめ